

令和2年度の実習スケジュール変更に伴う 保育実習指導の授業内容に関する検討

Examination of childcare guidance content

戸田 恵理子、小浦 康平

1. 要旨

長崎短期大学研究紀要第32号（令和2年3月発刊）において、「保育実習の振り返りに関する研究」を掲載し、共同教学IRネットワークシステムを活用した「実習の振り返り」のアンケート回答へと切り替えた。これにより学生の回答率向上や具体性のある回答収集、学生個人々人へ結果を早急にフィードバックできるなど学生教員双方においてメリットがあった。しかし、コロナ禍における令和2年度は、対面授業開始遅延に伴い実習時期の延期に伴う授業スケジュールの大幅な変更に伴い、「帰校日」登学もオンラインで実施した。アンケートの回答結果をもとに、実習内容に関する学生の困り感や不安の傾向を把握し、学生の学修内容の理解・定着を目指したスケジュールや授業内容を検討する。

2. 学外実習時期について

1) 保育実習の形態について

保育士資格を取得のためには、1年次後期（2～3月）に行う保育実習Ⅰ（施設10日間）と2年次8月に行う保育実習Ⅰ（保育所10日間）に加え、保育実習Ⅱ（保育所10日間）と保育実習Ⅲ（施設10日間）のどちらかを選択する仕組みである。

表2-1 保育実習履修パターン

パターン1	「保育実習Ⅰ（必修）」（施設10日+保育所10日）+「保育実習Ⅱ（選択必修）」（保育所10日）
パターン2	「保育実習Ⅰ（必修）」（施設10日+保育所10日）+「保育実習Ⅲ（選択必修）」（施設10日）

3. 従来型と令和2年度の実習日程及び授業スケジュールの比較

1) 種別毎の実習日程について

保育学科の学生は資格免許取得のため1年次後期から2年次後期にかけて約50日間の学外実習を実施する。

2) 従来型の実習日程及び授業スケジュール

2年次6月からの幼稚園教育実習を踏まえた授業内容を実習指導（保育実習指導Ⅰ・教育実習指導）の授業前半に組み入れたスケジュールで進めていく。

表3-1 本学の学外実習の日程及び関係授業スケジュール（従来版）

実習・関係授業	実習先	実習日数	実施時期	備考
実習指導 (保育実習指導Ⅰ・ 教育実習指導)			1年次後期	施設実習に向けて
保育実習Ⅰ（必修）	施設	10日	1年次2～3月	実習先配当は短大にて行う
実習指導 (保育実習指導Ⅰ・ 教育実習指導)			2年次前期	幼稚園教育実習Ⅰ（6月）に向けて
幼稚園教育実Ⅰ（必修）	幼稚園	2週間	2年次6月	学生自身で依頼
実習指導 (保育実習指導Ⅰ・ 教育実習指導)			2年次前期	保育実習Ⅰ（8月）に向けて
保育実習指導Ⅱ (集中講義)	保育所	3日間	8月	0、1、2歳児対象の模擬保育等の実施
保育実習指導Ⅲ (集中講義)	施設	3日間	8月	施設実習に向けた援助技術実践
帰校日		2コマ	保育実習Ⅰと保 育実習Ⅱ・Ⅲの 間に設定	履修学生全員対象
保育実習Ⅱ（選択必修）	保育所	10日	2年次8～9月	学生自身で依頼
保育実習Ⅲ（選択必修）	施設	10日	2年次8～9月	実習先配当は短大にて行う
幼稚園教育実習Ⅱ（必修）	幼稚園	2週間	2年次9月	学生自身で依頼

※帰校日：実習の振り返りを行い、次に控える実習における自己課題を明確にし、実習効果を高めていくことを目的とした登学日

3) 令和2年度の実習日程及び授業スケジュール

8月からの保育実習Ⅰ（保育所）の実習スタートに合わせ実習指導（保育実習指導Ⅰ・教育実習指導）スケジュールを主に3歳未満児を対象とした授業内容に切り替えることにした。また、実習時期が後期に移行した幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱに向けて保育実習指導Ⅱ（集中講義）では幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱに関する内容と帰校日を設ける計画に切り替えた。

表3-2 本学の学外実習の日程及び関係授業スケジュール（令和2年度版）

実習・関係授業	実習先	実習日数	実施時期	備考
実習指導 (保育実習指導Ⅰ・ 教育実習指導)	施設		1年次後期	施設実習に向けて
保育実習Ⅰ(必修)	施設	10日	1年次2～3月	実習先配当は短大にて行う
実習指導 (保育実習指導Ⅰ・ 教育実習指導)	保育所		2年次前期(前半)	保育実習Ⅰ(8月)に向けて (3歳未満児対象)
	幼稚園		2年次前期(後半)	幼稚園教育実習Ⅰ(9月)に向けて (3歳以上児対象)
保育実習指導Ⅱ (集中講義)	保育所	3日間	8月	幼稚園教育実習Ⅰ(9月)に向けて
保育実習指導Ⅲ (集中講義)	施設	3日間	8月	施設実習に向けた援助技術実践
帰校日	Zoom	2コマ	保育実習ⅠとⅡ の間に設定	履修学生全員対象
保育実習Ⅱ(選択必修)	保育所	10日	2年次8～9月	学生自身で依頼
保育実習Ⅲ(選択必修)	施設	10日	2年次8～9月	実習先配当は短大にて行う
幼稚園教育実習Ⅰ(必修)	幼稚園	2週間	2年次9月	学生自身で依頼
帰校日	Zoom	2コマ	幼稚園教育実習Ⅰ とⅡの間に設定	履修学生全員対象
幼稚園教育実習Ⅱ(必修)	幼稚園	2週間	2年次10月	学生自身で依頼

4. 令和元年度までの学外実習時期と授業展開について

令和元年度までは、1年次後期(2～3月)に実施する施設実習に向けて後期授業に実習指導(保育実習指導Ⅰ・教育実習指導)を実施してきた。2年次進級後、前期の実習指導(保育実習指導Ⅰ・教育実習指導)は、6月の幼稚園教育実習Ⅰに向けた授業でスケジュールを行い、実習から戻った6月下旬からは8月から始まる保育実習Ⅰ(保育所)に向けた内容で授業を進めて行く流れをとっていた。そして保育実習Ⅱ(保育所)及び保育実習Ⅲ(施設)それぞれ選択科目によって前期の評価期間後に設定する、保育実習指導Ⅱ及び保育実習指導Ⅲの集中講義を選択履修する形態であった。

1) 実習時期の変更について

令和2年度においては、新型コロナウイルス感染の状況を鑑み、令和2年6月1日(月)～6月12日(金)に予定していた幼稚園教育実習Ⅰ(前期)を10月に移行し、ⅠとⅡを連続日程(Ⅰ:9月17日(木)～10月1日(木) Ⅱ:10月5日(月)～10月16日(金))とした。

これに合わせ、幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱの間に帰校日(10月2日(金))を設け実習の振り返りをZoomで行った。この実習期間の移行に関しては、前年度中に内諾を頂いていた実習先全51か園に対し、実習延期に関する依頼文書と合わせて、代替期間での受け入れ対応の可否確認を学科全教員で電話にて回答確認を行い、学生の実習先確保確認ができる体制で始まった。

2) 対面授業スタート遅延に伴う授業スケジュール変更について

今年度は入学式以降、5月中旬まで休校措置となり、本科は5月25日の週から対面授業となった。2年次前期開講の実習指導(保育実習指導Ⅰ・教育実習指導)は従来は幼稚園教育実習に応じた授業計画内容でスケジュールしていたが、令和2年度は保育実習に向けた授業内容に切り替えることにした。これに合わせた形で、保育実習指導Ⅱ(集中講義)で幼稚園教育実習の内容を取扱う計画に切り替えた。実習期間中の「帰校日」は

保育実習・幼稚園教育実習とも Zoom で実施した。

3) 授業スケジュール変更に伴う学生の変化

不開講になった2年次前期「保育内容演習Ⅱ（保育教材研究b）」は、子どもの主体的活動を尊重した遊びの展開や保育者の援助方法や、子どもの年齢・発達等に応じた保育教材の考案・製作などの幼稚園・保育所実習に向けた内容であった。

この時間が確保できなくなったことで、学生は授業の予習復習だけでなく、模擬保育の指導案立案では、テキスト・参考資料の活用・確認などに熱心に取り組み、同じ実習施設に行く学生同士で情報収集・アイデアの共有などを率先して行う姿が見られるような変化があった。

5. 実習指導（保育実習指導Ⅰ・教育実習指導）の授業のスケジュールについて

1) 実習時期の移行による実習指導（保育実習指導Ⅰ・教育実習指導）について

従来は、幼稚園教育実習に合わせたスタートから展開していたが（表5-1）、令和2年度は、8月からの保育所実習が幼稚園実習よりも先に行われるスケジュールとなったため、比較的3歳未満児クラスの担当機会が多い保育実習Ⅰ（保育所）からのスタートに向けて、3歳未満児に関する内容を授業前半部分に設定するよう切り替えた（表5-2）。

実習指導Ⅰの内容は、3歳未満児の心身の発達をとらえる視点や、愛情豊かで受容的・応答的な保育者の態度、子どもにかかわる姿勢などの保育者に必要な基本的事項に加え、個別的で丁寧な保育者の具体的援助の方法、乳幼児の生活環境構成に関わる知識及び技術等の習得を目指した内容で計画した。

表5-1 実習指導（保育実習指導Ⅰ・教育実習指導）授業スケジュール（従来版）

回数	2019年度 講義内容
1	実習指導Ⅰ授業の流れ 幼稚園教育実習」に向けて オリエンテーションについて 実習生カード（下書き）
2	漢字テスト・手遊び（以後毎回） 4歳児の指導案返却について・部分実習について グループで模擬保育について話し合う（先生役決定） 3歳児・5歳児の指導案を作成したら提出
3	幼稚園実習の一日 実習前アンケート 課題記入 実習日誌記入に関する注意事項の指導 オリエンテーション訪問について
	連休までに幼稚園教育実習 オリエンテーション実施
4	実習日誌記入に関する指導 ねらいと自己課題 日誌の記入について（見本：良い例・悪い例） 日誌提出について オリエンテーション報告書提出
5	実習日誌への課題記入 実習書類作成
6	模擬保育準備 先生役保育の流れ練習 第1合教室
7	模擬保育① 3グループ×20分 見学者記録 模擬保育後の反省・協議 指導案返却
8	模擬保育② 3グループ×20分 模擬保育後の反省・協議
9	実習前確認チェックシート 評価項目確認記名 出勤表や日誌記入確認 園別に <input checked="" type="checkbox"/>

令和2年度の実習スケジュール変更に伴う保育実習指導の授業内容に関する検討

10	実習直前指導 遵守事項 実習持参書類渡し（複数の場合一人に依頼） 事後報告書記入について
11	「実習直後」の振り返り・自己評価 「実習報告会」 6グループ役割分担（司会・発表・記録）
12	幼稚園教育実習Ⅰ～幼稚園教育実習Ⅱへの課題 実習の振り返り（見直しと改善点の確認） 幼稚園教育実習1回目～2回目の視点
13	保育所実習に向けて 子どもの発達の連続性（DVD） 幼稚園教育実習から保育所実習へ 幼稚園実習日誌（1回目）修正・加筆した後 必ず提出
14	保育所実習に際しての留意点 遵守事項確認
15	幼稚園実習資料配布 2回目の実習生としての姿勢 まとめ
16	保育所実習に向けて 腸内検査 実習生カード記入 保育実習日誌 課題記入

表5-2 実習指導（保育実習指導Ⅰ・教育実習指導）授業スケジュール（令和2年度版）

回数	2020年度 講義内容
1	保育実習（保育所Ⅰ・Ⅱ）の意義・目的 ・「実習指導」の進め方について ・保育士資格取得を目指す実習生としての自覚や責任について ・「保育実習Ⅰ・Ⅱ」の意義・目的・内容について
2	保育所の1日について ・デイリープログラムについて ・実習日誌記入及び実習のねらいの設定 ・実習のねらいの設定について理解する
3	子どもの生活に応じた保育者（実習生）の配慮・援助について ・子どもの主体的な活動を尊重する保育について理解する ・保育者（実習生）の援助の意味を理解する
4	子どもの健康と安全について ・保育における安全と事故防止について ・子ども（乳幼児）の病気やけがについて 実習オリエンテーションに向けて ・「実習生カード」作成について理解する ・オリエンテーションについて理解する
5	保育実習に関する書類の作成 ・実習に必要な書類について理解する ・実習前の確認事項について理解する 実習施設への書中見舞いハガキの書き方について
6	幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱの意義・目的 ・実習生としての心構え（教科書使用） ・実習課題の立て方 ・実習生カード・日誌の実習課題
7	3歳未満児のあそびについて ・0歳・1歳・2歳が遊べる手作りおもちゃ

8	幼稚園の1日について ・幼稚園の生活について (DVD 視聴) ・様々な保育形態について
9	指導案について (DVD 使用)
10	幼稚園教育実習に関する書類の作成 ・実習に必要な書類について理解する ・実習前の確認事項について理解する
11	実習後の手続きについて ・実習後の対応の重要性 ・就職活動の方法やスケジュール
12	保育所実習巡回指導① (保育実習 I) ①健康状態 ② 遅刻欠席及び日誌・指導案提出状況 ③ 実習のねらい 等
13	保育実習 I (保育所) 振り返り (自己の振り返り) ・保育実習 II に向けた自己課題の設定 日誌記入 ・グループ討議 (司会進行・書記・発表者)
14	実習報告会 ・各グループの発表 ・保育実習 II 及び幼稚園実習について連絡
15	保育所実習 巡回訪問指導② (保育実習 II) ①健康状態 ② 遅刻欠席及び日誌・指導案提出状況 ③実習のねらい 等

1) 実習指導 (保育実習指導 I・教育実習指導) の授業のスケジュール比較

授業スケジュールの再設定により、学生は保育実習のオリエンテーションで事前に把握した自分の配属クラス (対象年齢) に関する実践活動準備について、従来スケジュールよりも早い段階で取り組むことが可能となった。

実習開始後、実際に子ども達とかかわることで、「子どもの興味関心の対象の理解」、「子どもの年齢・発達の個人差に配慮した保育活動の実際」、「活動の主体となる子どもの姿に応じた保育者の声かけ・伝え方の工夫」など具体的な配慮事項が盛り込まれた指導案の立案が出来るようになったことを巡回訪問面談の際に学生から話を聞くことが出来た。

授業スケジュールの再設定により日程はタイトになったものの、限られた時間の中で学生が主体的に学ぶ力が身に付き、実習準備 (対象年齢に応じた内容) も比較的早い段階で取り組むことができた。実際に、従来スケジュールよりも向上心やモチベーションの高さを維持した学生が多く見受けられた。学修内容の理解・定着に関しても、学んだ内容をすぐに学外実習で実践できるスケジュール設定により、より深い学びに繋がったと考える。

6. 保育実習指導 II (集中講義) の授業スケジュールの比較

1) 保育実習指導 II (集中講義) の授業スケジュールの変更について

従来の保育実習指導 II (集中講義) は、保育実習 II (選択必修) 履修者を対象に実施していた。

令和 2 年度では模擬保育の対象年齢を 2 歳児・3 歳児・5 歳児に設定して実施した。

表6-1 保育実習指導Ⅱ（集中講義）の授業スケジュール（従来版）

回数	2019年度 講義内容
1	保育実習Ⅱ（選択 保育所10日間） ・全体的な計画について
2	保育の仕事 合同面談会（13：30～15：30）
3	
4	乳児への適切な関わりについて 障害のある子どもの保育について
5	保育所実習 保育実践準備Ⅰ
6	模擬保育（0歳児）6か月～1歳3か月
7	模擬保育（1歳児）1歳3か月～2歳
8	模擬保育（2歳児）おおむね2歳
9	模擬保育の振り返り
10	指導案 加筆修正 保育所実習 保育実践準備Ⅱ 保育実践のための指導案作成（再）及び保育教材製作等
11	保育士の業務内容や職業倫理の理解について ～卒後2年目の保育者からのメッセージ～
12	保育士倫理綱領 授業評価及びアンケート
13	保育実習Ⅰ振り返り（自己の振り返り） グループ討議（司会進行・書記・発表者）
14	実習報告会 幼稚園教育実習書類配布 今後の実習・就活・後期授業に関する連絡・確認 お礼状（幼稚園教育実習）・履歴書・採用試験等の確認
15	実習巡回訪問指導 ①健康状態 ②遅刻・欠席及び日誌・指導案などの提出状況 ③実習のねらい などの確認
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 必携	

表6-2 保育実習指導Ⅱ（集中講義）の授業スケジュール（令和2年度版）

回数	2020年度 講義内容
1	遵守事項の確認：コピー：保管 原本：学生 ・保育所実習 ・幼稚園教育実習
2	子どもの年齢・発達に応じた保育実践の準備 ・模擬保育に必要な物品等の確認
3	子どもの年齢・発達に応じた保育実践の準備 ・模擬保育に必要な物品等の確認
4	子どもの年齢・発達に応じた保育実践の準備 ・模擬保育に必要な物品等の確認
5	模擬保育①（2歳児） 2グループ×20分 模擬保育後の反省・協議
6	模擬保育②（3歳児） 2グループ×20分 模擬保育後の反省・協議

7	模擬保育③（5歳児） 2グループ×20分 模擬保育後の反省・協議
8	模擬保育の振り返り 指導案の加筆修正
9	実習にむけての確認テスト
10	保育士倫理綱領 自己アンケート・授業評価：アクティブポータル
11	保育所実習・幼稚園教育実習Ⅱの書類渡し 実習持参書類渡し（複数の場合リーダーが所持）
12	幼稚園実習巡回指導①（幼稚園教育実習Ⅰ） ①健康状態 ②遅刻欠席及び日誌・指導案提出状況 ③実習のねらい 等
13	・幼稚園教育実習Ⅰ振り返り（自己の振り返り） ・グループ討議（司会進行・書記・発表者）
14	実習報告会 幼稚園教育実習Ⅱ：10月5日（月）～10月16日（金）に関する連絡日誌 実習課題転記
15	幼稚園実習巡回指導②（幼稚園教育実習Ⅱ） ①健康状態 ②遅刻欠席及び日誌・指導案提出状況 ③実習のねらい 等
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 必携	

2) 保育実習指導Ⅱ（集中講義）の授業スケジュールの比較

令和2年度の保育実習Ⅱ（集中講義）は、幼稚園教育実習Ⅰ（9月17日（木）～10月1日（木））・幼稚園教育実習Ⅱ（10月5日（月）～10月16日（金））の実習日程変更に伴い保育実習指導Ⅱ（集中講義）の授業内容も表6-2の通りに切り替えた。特に、模擬保育では保育所及び幼稚園教育実習両方でも関わる3歳児を設定した方が全実習を経験する学生に必要なと考え、3歳未満児の中でも2歳児の設定、保育所及び幼稚園教育実習でもかかわる3歳児・5歳児の対象年齢で実施した。

7. 実習期間の「帰校日」の流れについて

1) 実習期間における「帰校日」スケジュールについて

実習期間における「帰校日」とは、保育実習Ⅰの振り返りを基にグループワークを通して気づきや反省を共有することで、保育実習Ⅱに向けた自己課題を明確にし、実習の効果をより高めていくことを目的としているものである。実習生同士の情報交換や交流、教員から保育の知識・技術面のフォロー・アドバイスが出来る機会である。

表7-1 「帰校日」スケジュール（従来版）

第13講	2019年9月13日（金）	実施時間：1、2コマ
本時のねらい	1. 保育実習Ⅰ・Ⅱを振り返り、自己評価を行う 2. グループワークを通して、保育実習での体験を共有し、自己課題の明確化を図る 3. 保育実習Ⅱ及び幼稚園教育実習Ⅱに向けた準備内容について確認する	
講義内容		
1コマ	・保育実習Ⅰの振り返り（自己の振り返り） ・グループワーク（司会進行・記録・発表者）	
2コマ	・実習報告会（発表） ・今後の実習に向けた課題設定	

表7-2 「帰校日」スケジュール（令和2年度版）

第13講	2020年8月28日（金）	実施時間：45分（Zoom）
本時のねらい	1. 8月27日（木）に回答したAPアンケート内容をもとに保育実習Ⅰの振り返りを行う 2. 保育実習Ⅰの振り返りを通して、保育実習Ⅱ・Ⅲに向けた自己課題を明確にする 3. 保育実習Ⅱ及び幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱに向けた準備及び内容について確認する（各種証明書の提出等）	
講義内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習Ⅰの振り返り（自己評価） ・ アクティブポータルでの実習Ⅰ・Ⅱ回答 ・ 検温・健康観察の継続 ・ 病欠等に連絡方法再確認 ・ 幼稚園教育実習Ⅰ・Ⅱの内容再確認 ・ 実習後の対応について 		

2) 実習期間における「帰校日」スケジュールの比較

従来の帰校日は、個別で保育実習Ⅰの振り返りを行ったあと、10名程度のグループに分かれてグループワークによる情報共有を行ってきた。個人の振り返り後のグループワークは、実習時の困り感や躓きなどを学生同士共有することで、自己の振り返りを客観的な視点をもって再度見直すことが出来、その後の実習に向けてより具体的な自己課題を設定する目的があった。また、学生たちも午前中の短い授業時間帯ではあるが、実習先は違えども実習前半の困難を乗り越えた者同士で顔を合わせることで、安心感と実習後半に向けて互いに頑張ろうという気持ちを確認することができる場でもあった。教員側としても、実習巡回訪問時だけでは十分に学生の話聞くことが出来なかった内容についての確認や、保育実習Ⅱに向けた学生の事前準備の確認や意識変化などにも気づくことが出来た。

一方、令和2年度の「帰校日」（令和2年8月28日）は、Zoomによる45分間のオンライン授業とした（従来型では対面で3時間）。学生側も実習と前期の様々なオンライン授業を経て、授業開始前に全員揃うことができるなど実習生としての時間前行動が意識的に身に付いていた様子が伺えた。また、振り返りアンケートでの自己課題設定や実習課題への取り組みも従来型よりも意識が高く感じられ、教員からの指導は最低限で留まった。

8. アンケート結果

1) アンケート対象者

アンケート対象者：令和2年度保育学科保育専攻97名

・ 保育実習Ⅰアンケート回答数：89

・ 保育実習Ⅱアンケート回答数：60（集計対象 n=60）

※保育実習Ⅱアンケート回答者はすべて保育実習Ⅰを回答している。

※本報告では保育実習Ⅰ・Ⅱアンケート回答者60名を集計対象とした。

2) アンケート実施期間

保育実習Ⅰアンケート・・・令和2年8月27日（木）：保育実習Ⅰ終了後～10日間

保育実習Ⅱアンケート・・・令和2年9月10日（木）：保育実習Ⅱ終了後～10日間

3) アンケート内容

保育実習（保育所10日間）の最終日である8月27日（木）にアクティブポータルを利用したWEB調査にてアンケートを実施した。評価はすべて（1.あまりできなかった、2.普通、3.よくできた）の3段階による自己評価とした。

4) 保育実習Ⅰアンケート

【ねらい】

保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深めるとともに保育所の機能と、そこでの保育士の職務について学ぶ

【結果概要】

保育実習Ⅰの自己評価アンケート結果から、「A1 施設及び保育所・認定こども園の役割と機能について学ぶ」や「A3 発達過程に応じた保育内容・保育環境について理解する」、「A2 観察や記録を通し子どもを理解し、適切な援助や関わりを学ぶ」の自己評価が比較的高い傾向が見られた（表8-1）。

表8-1 内容についての質問

タグ	質問内容	平均値	標準偏差
内容 A1	施設及び保育所・認定こども園の役割と機能について学ぶ	2.78	.415
内容 A2	観察や記録を通し子どもを理解し、適切な援助や関わりを学ぶ	2.73	.446
内容 A3	発達過程に応じた保育内容・保育環境について理解する	2.75	.437
内容 A4	生活や余暇活動及び遊びの一部を担当し、保育技術の習得をする	2.40	.616
内容 A5	保育計画立案、実践、反省、改善ができる	2.27	.733
内容 A6	施設及び保育所、認定こども園と家庭・地域社会との連携を理解する	2.43	.500
内容 A7	安全及び疾病予防への配慮について理解する	2.62	.524
内容 A8	専門職としての保育士の役割と職業倫理について学ぶ	2.65	.481

表8-2 態度についての質問

タグ	質問内容	平均値	標準偏差
態度 A1	意欲を持って積極的に取り組んだ	2.90	.303
態度 A2	責任ある態度で実習に取り組んだ	2.92	.334
態度 A3	保育への探求心をもって保育実践に取り組んだ	2.85	.360
態度 A4	協調性をもって実習園の先生方と関わった	2.78	.454

5) 保育実習Ⅱアンケート

【ねらい】

1. 保育所の保育を実際に実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する
2. 家庭と地域と生活実態にふれて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育て支援をするために必要とされる能力を養う

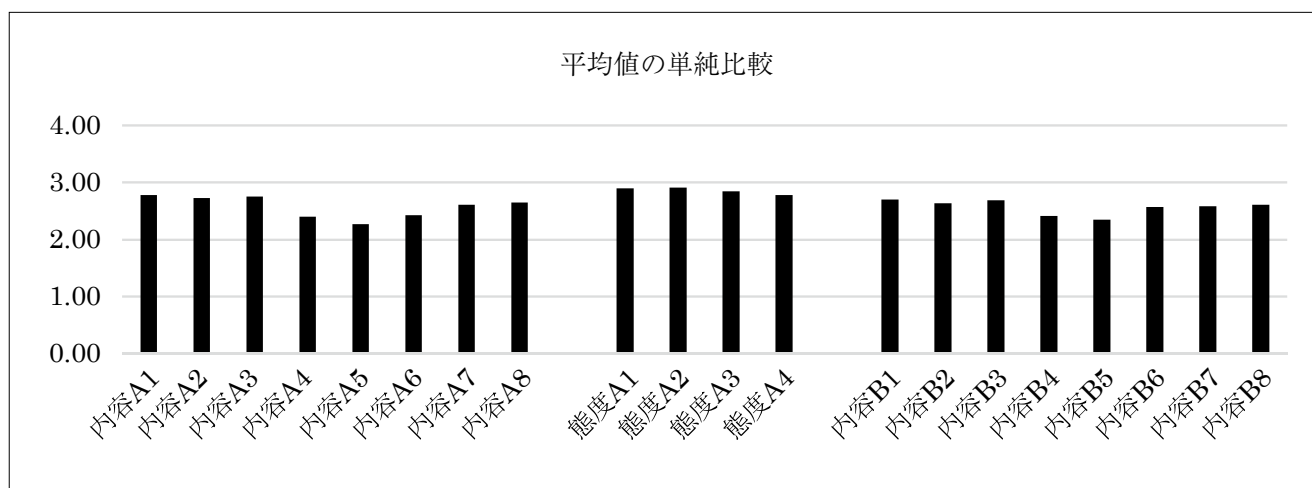
【結果概要】

保育実習Ⅰの自己評価アンケート結果から、「B1 保育全般に参加し、保育技術を習得する」、「B3 指導計画を立案し実践する」などが比較的高い傾向が見られた（表8-1）。

表8-3 内容についての質問

タグ	質問内容	平均値	標準偏差
内容 B1	保育全般に参加し、保育技術を習得する	2.70	.462
内容 B2	子どもの個人差について理解し、対応方法を理解する。特に発達の遅れや生活環境にともなう子どものニーズを理解し、その対応について具体的に学ぶ	2.63	.486
内容 B3	指導計画を立案し実践する	2.68	.567
内容 B4	子どもの家族とのコミュニケーションの方法を具体的に習得する	2.42	.530
内容 B5	地域社会に対する理解を深め、連携の方法について具体的に学ぶ	2.35	.547
内容 B6	子どもの最善の利益への配慮を学ぶ	2.57	.500
内容 B7	保育士としての職業倫理を理解する	2.58	.497
内容 B8	保育所の保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて自己の課題を明確化する	2.62	.490

図8-1 平均値の単純比較



6) 集計結果

保育実習Ⅰの回答結果と保育実習Ⅱの回答結果から、学生の自己評価が高まったかどうかの検証を試みた。厳密には質問の文章が保育実習Ⅰと保育実習Ⅱとで異なっているため確実な比較にはならないことを前提の上で、似たキーワードを有する質問項目について抽出し a,b,c,d の4グループに分けて比較を試みた(表8-4、表8-5、図8-2)。

表8-4 質問グループの振り分け

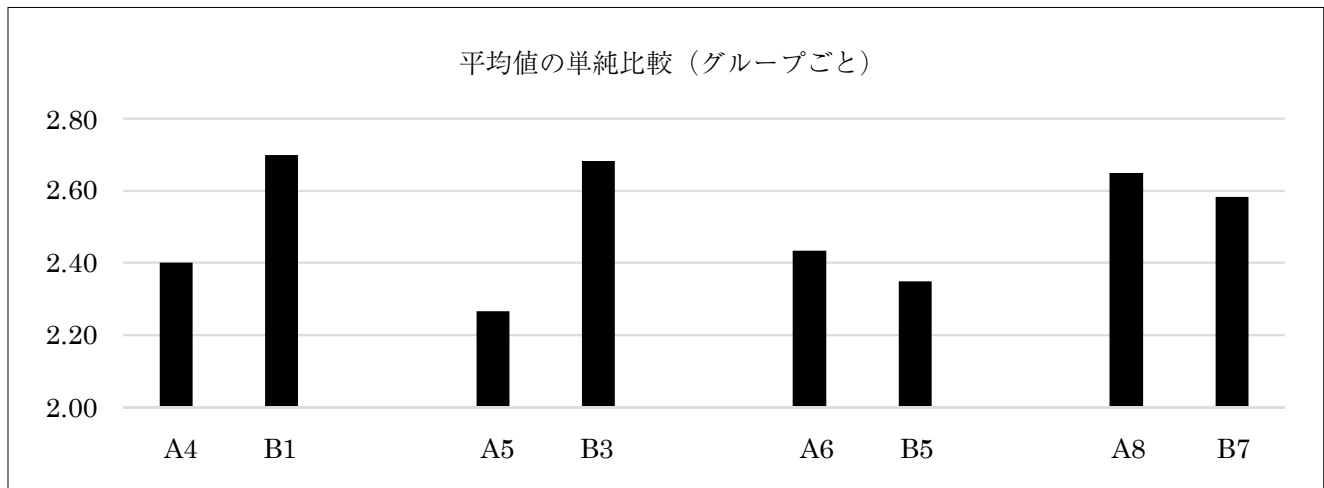
質問グループ	タグ	主な内容
aグループ	A4とB1	保育技術の習得について
bグループ	A5とB3	計画立案から実践について
cグループ	A6とB5	地域社会との連携について
dグループ	A8とB7	職業倫理について

表8-5 度数分布

グループ	a	b	c	d
保育実習Ⅰアンケート結果	内容 A4	内容 A5	内容 A6	内容 A8
1. あまりできなかった	5	15	2	1
2. 普通	38	31	49	31
3. よくできた	45	42	37	56
平均値	2.40	2.27	2.43	2.65
標準偏差	.616	.733	.500	.481

グループ	a	b	c	d
保育実習Ⅱアンケート結果	内容 B1	内容 B3	内容 B5	内容 B7
1. あまりできなかった	0	3	2	0
2. 普通	18	13	35	25
3. よくできた	42	44	23	35
平均値	2.70	2.68	2.35	2.58
標準偏差	.462	.567	.547	.497

図8-2 平均値の単純比較（グループごと）



※ aグループ（A4とB1）,bグループ（A5とB3）,cグループ（A6とB5）,dグループ（A8とB7）

【相関係数】

相関については、aグループ、cグループ、dグループについて弱い相関が見られた（表8-6）。

表8-6 相関係数

グループ	タグ	Pearsonの相関係数	有意確率（両側）	結果
a	A4とB1	.310*	.016	弱い相関、 $p < .05$ 有意差あり
b	A5とB3	.125	.342	ほとんど相関なし、 $p = .342$ 有意差なし
c	A6とB5	.304*	.018	弱い相関、 $p < .05$ 有意差あり
d	A8とB7	.443**	.000	やや相関あり、 $p < .05$ 有意差あり

【グループごとの平均値の比較結果（対応のある t 検定）】

対応のある t 検定の結果から、a グループと b グループにおいて平均値の差に有意差が見られた（表 8 - 7）。

表 8 - 7 対応のある t 検定

グループ	タグ	簡単な内容	対応のある t 検定の結果
a	A4 と B1	保育技術の習得	t (59) =3.60, p<.001 で有意差あり
b	A5 と B3	計画立案から実践	t (59) =3.71, p<.001 で有意差あり
c	A6 と B5	地域社会との連携	t (59) =1.04, p>0.05 で有意差なし (p=0.30)
d	A8 と B7	職業倫理	t (59) =1.00, p>0.05 で有意差なし (p=0.32)

7) アンケートの考察

・ a グループの「保育技術の習得」について

模擬保育に向けた指導案立案の中で、子どもの年齢・発達に応じた保育活動の準備時間を実習指導（保育実習指導 I ・教育実習指導）の中で確保していた。このことが学生の自己評価においても保育技術を習得したという達成感に繋がったのではないかと推察する。また、いったん授業内で準備した教材等を改めて子どもたちの興味関心に応じたものへと再構成するなど、改善・工夫する姿があり、学びが深くなっている様子が見られた。

・ b グループの「計画立案・実践」について

指導計画立案の指導は例年実施している。令和 2 年度は、従来 60 点合格ラインのところ、合格ラインを 70 点以上に設定し、合格・不合格に関わらず空きコマを活用した補講を実施した。参加した学生の中には合格した後も指導案や制作見本などについて更なる指導・助言を求めるなど、向上心の高い学生もいた。

事前指導の段階で、自分の得意不得意な事柄を把握し、解決できる学習環境の場があったことで、実習中での保育計画立案や実践活動に対する達成感を得られたのではないかと推察する。t 検定では有意差が見られたものの、相関係数が低く有意差なしだった理由は、A5 の質問が B3 よりも高いレベルを要求した質問になっており、A5 で「1. あまりできなかった」を回答した学生が特に多かったためと考察する。次年度以降は質問文章の工夫改善を検討する。

・ c グループの「地域社会との連携」について

平均値比較では、有意差は見られなかった。質問の内容が a グループ b グループに比べ、段階的な問いかけとなっており、同率比較は困難だったと考える。

地域社会との連携については、実習現場での理解を深め、さらに連携の方法について具体的に学ぶことが求められるが、地域活動がなかなか実施できなかった年度であることも考慮すると、具体的に学ぶためには次年度以降に何らかの工夫が必要であると考ええる。

・ d グループの「職業倫理」について

職業倫理の平均値比較についても、有意差は見られなかった。c グループと同様に「学ぶこと」と「理解すること」の問いかけ方が異なっており、同率比較は困難だったと考える。

また、保育士の職業倫理の理解については、「倫理」「職業倫理」の意味の理解、保育士のような特定の職業に求められる倫理等について、実習前に事例を通した学びを再度行う必要があると考ええる。

8) アンケートのまとめ

保育実習 I と保実習 II のアンケート結果から「保育技術の習得」については学生の自己評価では伸びが見られることが分かった。また、「計画立案・実践」においても、実際の実習期間中に計画立案・実践を必ず経験

していることから、概ね伸びが期待できることは想像できる。「地域社会との連携」については、令和2年度は活動自粛の影響もあり、次年度以降に感染防止対策なども含めた企画・運営上の工夫が必要であると考えます。「職業倫理」については、明確な学生の学びの成長についての結論は出せなかったが、「保育者の保育に臨む姿」そのものが倫理観に基づいて展開されているという視点を持ち実習に臨むことが出来るよう伝えていく。今後の授業内で職業倫理の必要性・保育士の職業倫理について、「全国保育士会倫理綱領学習シート」などの活用した授業を目指していく。

9. 今後について

1) 自己評価アンケート結果を踏まえた実習指導内容に関する学生の傾向と対策

今後は、実習指導の授業の中で、学生自身が実習を通して身につけていく専門的知識・技術の習得の達成感を味わうことができるような、能動的な学習姿勢を習得できる授業内容を検討する。

2) 実習の連続性の意図を理解できる実習指導の在り方

保育実習からのスタートとなった令和2年度の学外実習は、0歳児からの子どもの心身の発達の道筋について、学生は担当クラスの子どもたち一人ひとりの育ちの姿を丁寧に捉えることができるようになった。これを踏まえて、次年度以降は従来日程を基本としつつ、学生の学修内容の理解・定着を目指したスケジュールや授業内容を検討したいと考える。

また、教授方法についてはオンライン型と対面型授業のハイブリッドを求められる時代であるため、Zoom 帰校日の経験を活かして、新しい教授内容や授業展開も併せて検討していきたい。

10. 謝辞

実習を受け入れて下さった全ての施設の皆様に深く感謝申し上げます。コロナ禍の厳しい状況下、学生たちはそれぞれの実習施設で子どもへの優しくあたたかなまなざしを持つ保育者と出会い、多くの助言を頂くことができました。

実習における対策や課題などを実習施設と養成校間で共有し、今後の実習に繋げて行きたいと考えます。

11. 参考文献

- 1) 林 邦雄・谷田貝 公昭監修、大沢 裕・高橋 弥生 編著、保育者養成シリーズ 幼稚園教育実習、一藝社出版、2012,p.90,ISBN978 - 4 - 86359 - 047 - 2.
- 2) 小櫃智子・守 巧・佐藤 恵・小山朝子・遠藤純子、実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド、わかば社、2019,p.24 - 25,p.36 - 37,ISBN978 - 4 - 907270 - 15 - 5.
- 3) 寺田清美・大方美香・塩谷香、乳児保育 I・II 新・基本保育シリーズ⑮、2019,p.92 - 104,p.292 - 300,ISBN978 - 4 - 8058 - 5795 - 3
- 4) 志村聡子 編著、吉長真子・塩崎美穂・藤枝充子・渡邊美智子・坂田知子・柳井邦子・小柳康子・宇都弘美 著、はじめて学ぶ乳児保育、同文書院、2018,p.130 - 173,ISBN978 - 4 - 8103 - 1473 - 1.
- 5) 戸田 恵理子、小浦 康平（2019）保育実習の振り返りに関する研究．長崎短期大学 研究紀要 32,25-37.